

自閉症スペクトラム啓発活動 in 仙台のご報告

去る8月6-8日に仙台市で開かれた「日本看護学教育学会」にて、交流セッションの一コマを頂き【**発達障がいを知ろう**】をテーマに、全国の看護学校※1の先生方に向けて啓発してきました。



今回発表してきたメンバーは3人で、保護者であり、大学院生であり、看護学校教師である、前ポプラ会副会長の野田孝子さん。大学院生であり、医療法人北仁会旭山病院※2 看護師長である、北森久美子さん。現ポプラ会副会長の菅井です。

まずは野田さんが、【**自閉症スペクトラムの特性や、医療受診や看護教育の実態について**】簡単にお話しました。

その後「もっと知りたい！自閉症の人の医療受診」というDVD※3を見て頂き、すぐに疑似体験の演習をして頂きました。



注目している場所が違うという視覚的な事、聞こえ方が違うという聴覚的な事、表情と感情が一致しない場合があるという事などを、お一人の方に前に出て体験して頂きながら、参加されたみなさんにも見て頂くと、「どんな風に見えますか？実はこんな風に見えるのだそうです！」の問いに、「え～！そうなんだあ・・・」などの反応が見られました。

そして今度は北森さんが、【**精神科病棟で出会う ASD※4**】として統合失調症との併存で、間違った対応の末旭山病院へ辿り着いた方の事例を紹介しました。

統合失調症の中の思考の障害(鬱や妄想)の部分など、総合的に診て自閉症と重複し誤診されることがあり、間違った投薬によつての症状悪化となった事をお話されました。

最後に菅井から、【**家族から見た医療受診**】として本人や家族の困り感と、あったらいいなと思う配慮について、私自身の壮絶な体験談を含めお話し、看護学生の頃から最低限の自閉症への知識を、是非先生方から伝授して頂きたい事をお願いしてきました。

ありがたい事に、涙を流して聞いて下さる先生も。最後には盛大な拍手を頂きました。



当日は、「発達障がいの人たちを優しくおねがいします」※5という医療機関受診を支援するパンフレットと、アメリカ小児医学会が PECS※6 を推奨している事を紹介したプリントを50部準備したのですが、多くの講演会や研究発表や交流セッションが、同時進行するというプログラムの中から、私達のセッションに資料が不足



するほどたくさんの先生方に足を運んで頂きました。

その影には、看護学生の中に居る自閉症スペクトラムの子に対する指導に、先生方が困り感を抱いているという現実がありました。意見交換の時間にも、

「授業態度やレポートの提出忘れなど評価が付けられない」

「成績は良いが社会人としてやっていけない学生を実習に出せない」

「看護師としての進路指導をしていいものか」

「医師にはなれるかもしれないがコミュニケーションが命の看護師には不向き」

「看護学の知識は病院の看護師という職業だけでなく多様性があるから否定せず模索するまでが教師の役割」など、多くの意見が交わされました。



文責:菅井なおみ



※1 静岡私立静岡看護専門学校、春日部市立看護専門学校、総合南東北病院、千葉大学看護学研究科、順天堂大学越谷病院、武蔵野大学看護学部看護学科、防衛医科大学校高等看護学院、公益財団法人福十字病院、千里金蘭大学、岩手県立大学、所沢准看護学院、鹿児島純心女子大学、埼玉県立常磐高校、福山平成大学、かわさき看護専門学校、神戸市看護大学、三重大学、藍野大学、千葉医療センター附属千葉看護学校、北里大学看護専門学校、美里共立高等看護学院、埼玉福祉専門学校、札幌医科大学、都立広尾看護専門学校、埼玉医大保健医療、東北大学病院、自治医科大学看護部精神看護学、千葉大学看護学研究科、東北福祉大学社会貢献センター特別支援教育研究室保護者支援講座、神尾中央看護専門学校、北海道文教大学、神戸市看護大学、活水女子大学、共立女子大学、東北大学病院、他。

※2 〒064-0946 北海道札幌市中央区双子山4丁目3番33号 TEL.011-641-7755 FAX.011-631-5512

※3 2010年6月 自閉症スペクトラム障害など発達障害の人達が安心して医療を受診できることを目指して、札幌や札幌近郊の支援職・保護者の有志が集まり「もっと知りたい自閉症の人の医療受診実行委員会」を発足、作成したDVD。

※4 Autistic Spectrum Disorders(自閉症スペクトラム)の略。

※5 2009年7月 NPO法人PandA-J発行/自閉症・知的障害・発達障害児者の医療機関受診支援に関する研究会監修

※6 Picture Exchange Communication System(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の略。

